

令和5年度病害虫発生予察注意報第2号

令和5年9月4日

岐阜県

作物名 大豆、野菜類および花き類

病害虫名 ハスモンヨトウ

1 発生地域 県内全域

2 発生時期 8月下旬以降

3 発生程度 多い

4 予報の根拠

- (1) フェロモントラップにおける7月第6半旬～8月第5半旬の累計誘殺数は、岐阜地域で638頭(平成513.6頭)、中濃地域で1,411頭(平成223.3頭)、東濃地域で904頭(平成124.8頭)と多く、平成と比較し1.2～7.2倍となっている(図)。
- (2) 8月下旬の巡回調査では、岐阜・西濃地域のサトイモで食害が確認されており、大豆では若齢幼虫の加害による白変葉が散見されている。
- (3) フェロモントラップによる誘殺ピークは平成9月下旬～10月上旬で、今後も発生量が増加し、被害が拡大すると考えられる。
- (4) 名古屋地方気象台の1か月予報(8月31日発表)では、今後の気温は平成より高いと予報されており、本虫の発生に好適な気象条件になると予測される。

5 防除上の注意事項

- (1) 大豆では新たな白変葉等、食害の発生を確認したら、直ちに防除を実施する。
- (2) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が低下するので、若齢幼虫の防除に重点を置く。
- (3) 幼虫の発生量は、ほ場ごとに大きく異なるため、必ず各ほ場での発生状況を確認する。
- (4) 施設栽培では、防虫ネットを張り、成虫の侵入を防ぐ。
- (5) 発生は露地で11月初旬、施設栽培では11月下旬まで続くと考えられるため、引き続き発生情報に注意する。
- (6) 農薬の使用にあたっては、最新の登録情報を参照し、適正に使用する。
(<https://pesticide.maff.go.jp/> 農薬登録情報提供システム)

【参考資料】

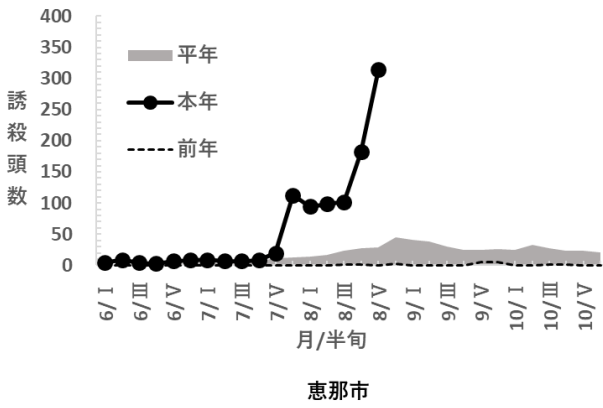
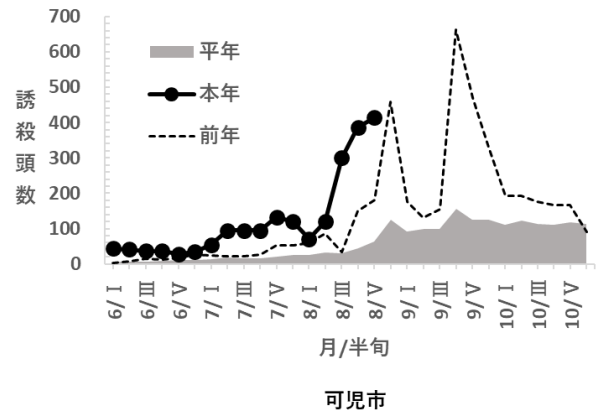
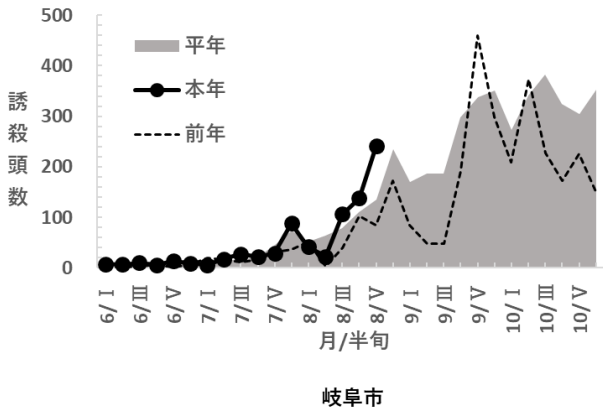


図 各地域に設置したフェロモントラップにおける誘殺数の推移